

春の運転は、風に注意しましょう

「春一番」というように、春は強い風が吹くことがあります。台風の際には風速を気にしますが、普段から風に注意を払うドライバーは少ないかもしれません。しかし、油断していると重大な事故に巻き込まれる可能性があるため注意が必要です。



風は雨と違って目に見えないため、危険性を甘く見てしまいがちです。しかし、強風によって車のコントロールが効かず、事故につながることもあります。

風の強さと運転への影響は次のとおりです。

・「やや強い風（風速 10～15m/s）」

高速道路を走行している際、横に流されるような感覚を受ける。

・「強い風（風速 15～20m/s）」

高速道路走行中、横に流される感覚がより顕著になる。

春の嵐になるとこれ以上の風が吹くこともあります。

走行中の車が強風を受けた場合、スピードが出ているほど車線から大きく外れる可能性があります。ミニバンやワンボックスなどの車体が大きい車はより影響を受けやすいため、特に警戒が必要です。



特に風の影響を受けやすい場所

- ◇トンネルの出口
- ◇海岸沿い
- ◇橋や土手の上
- ◇高速道路の防音壁が切れている箇所



これらの場所では、ハンドルを取られないよう両手でしっかり握り、いつでも減速できるよう準備しておくことが大切です。

どんなに注意していても、一瞬の気の緩みから強風でハンドルを取られそうになることがあります。その際、慌てて急ブレーキを踏むと追突事故につながるおそれがあります。

急ブレーキだけでなく、急ハンドルなど“急”のつく運転は、避けてください。



事前にできる強風対策としては、まずは気象情報をしっかり確認することが重要です。天気や気温だけでなく風の強さもチェックしましょう。



思わぬ事態に対応するためには、運転姿勢も大切です。日頃から正しい運転姿勢を意識するようにしてください。

